



複数回献血クラブ 会員大募集!!



血液センターホームページのリンクバナーからもアクセスできます!

複数回献血クラブ会員サイトを平成30年10月29日にリニューアルいたしました。新たに愛称を「ラブラッド」とし、従来の血液検査結果が確認できるサービスの他に...

- ◆献血ルームにご予約、もしくは献血にご協力いただくと、WEBポイントが貯まります。
- ◆全国の献血ルームが予約可能になります。
- ◆会員限定のキャンペーンや特典があります。(予定)

というサービス等が追加されました!

献血者コードをお持ちの方ならどなたでも入会可能です。右のQRコードを読み取り、公式サイトからお手続きください。皆様のご入会を心よりお待ちしております。




- ※「献血者コード」は、献血カード最上段に記載されている10桁のコードです。
- ※石川県内の献血ルームでは、しばらくの間、予約受付は平日の成分献血のみとさせていただきます。
- ※ガラケー（フューチャーフォン）には対応しておりません。ご了承ください。

**ありがとうございました!! 永年献血**

長きにわたり献血にご協力いただき、今般献血を卒業された皆さまをご紹介します

能登の方で献血車を見て、献血をはじめました。ある時献血車で「患者さんからのメッセージ」を見て、少しでも役に立てたらと思い、次も協力できるようないつも健康に注意してきました。そして何とか卒業の時を迎えることができました。

皆様、献血に行こう。スタッフの方ががんばって! 一花 茂雄 様



**イベント・キャンペーンのお知らせ**

**バレンタイン 献血キャンペーン** 2/8(金)~14(木) 献血ルーム ル・キューブ  
期間中に献血にご協力いただいた方にチョコレートをプレゼント!

**ホワイトデー 献血キャンペーン** 3/8(金)~14(木) 献血ルーム ル・キューブ  
期間中献血にご協力いただいた方に、素敵なプレゼントをご用意しています!

**献血ルームル・キューブ 開設5周年記念イベント** 3/11(月)~15(金) 献血ルーム くらつき  
開設5周年を記念して様々な企画&素敵なプレゼントをご用意しています!

皆さまぜひお越しください

**コラム 献血のゆくえ 「届ける」**




皆さまからいただいた大切な献血は、「集める」「調べる」「つくる」「届ける」の4つのステップを経て輸血を待つ患者さんのもとに届けられます。今回は最終回、「届ける」についてお話しします。

様々な過程を経て製造された輸血用血液製剤は、血液センターの供給部門で、医療機関に届けられるまでの間、厳密に温度管理された専用の保管庫で保管されます。血液製剤は種類によって最適な保存条件が異なるので、それぞれに合った条件下で保管します。

石川県では、県内全域の医療機関からのオーダーに対応しています。赤血球製剤は、県内で使用される血液量の約3日間分は常時ストックしているため、急に大量の輸血が必要になった場合も対応可能です。また、東海北陸7県で協力しながら、広域的需給管理も行っています。

様々な症状の患者さんに血液を不足なく安定的にお届けするために、血液型 (ABO、Rh) 別や製剤種類別の管理、まれな血液型への対応など、常に関係部門と緊密に連携して安定供給に努めています。

このように、皆さまからいただいた貴重な献血はたくさんの過程を経て毎日大切に患者さんのもとに届けられています。これからも温かいご協力をお願いします。

**おとがま**

あけましておめでとうございます。新しい年を迎え、皆さまいかがお過ごしでしょうか。5月から新元号となるなど、また新たな始まりの年となりそうですね。一層お忙しい年となりそうですが、そんな日々の中でも、献血ルームや献血バスでちょっと一息、献血しながらゆったりとした時間を過ごしていただければと思います。皆さまのお越しを職員一同心よりお待ちしております。本年も献血へのご理解ご協力 よろしくお祈りいたします。(編集委員：N)

あなたがいなければ、つくりえないもの。



それはあなたがいなければ、つくりえないもの。

涙を、笑顔にするもの。

いのちどころに届くもの。

いまこの国では、10代20代の献血者が減少しています。

血液はまだ、人工的につくることはできません。

献血へのご協力をお願いします。

# はたちの献血

**キャンペーン実施中**

ぜひお近くの献血ルーム・献血会場にお越しください

平成31年1月1日(火) ~ 2月28日(木)

**年頭のご挨拶** 石川県赤十字血液センター 所長 塩原 信太郎

明けましておめでとうございます。今年も県民の皆様方の心温かい善意の献血に支えられ、血液事業は円滑に推移していますことをまずご報告でき、心から感謝申し上げます。

おかげさまで、平成29年度は延べ約4万2千人の皆様から献血をして頂き、必要とされる血液製剤を患者様の元へ不足することなくお届け出来ました。事故やお産後の大量出血、外科手術や心臓手術の出血対策、がんの治療、血液の病気、臓器移植、慢性の貧血、新生児黄疸などの治療に使わせて頂きました。

血液事業の広域化により血液製剤は種類も安全性も飛躍的に向上しています。輸血副作用の予防には洗浄血小板、血小板輸血の効果が減弱した患者様にはHLA適合血小板、出産後の新生児黄疸には合成血など、病院からの多様な注文に応じ、石川製造所と連携して、素早く病院へお届け出来ました。

本特集では頻回輸血経験者の体験談が載せられています。献血も骨髄バンク支援も県民の皆様方の継続したご支援の賜物と改めてお礼を申し上げます。

献血はこれからも皆様方の“人のためを思う気持ち”に支えて頂くしかありません。皆様方が安心して献血して頂けますように、また健康管理のお役に立てますよう献血環境の改善、健康相談、料理教室など職員一同一層力を注いでいく所存です。

本年も皆様方のご指導ご鞭撻をお願い申し上げますとともに県民の皆様方にとりまして本年が幸多い一年になりますことを心からご祈念申し上げます。

# さちしお

**SACHISHIO**

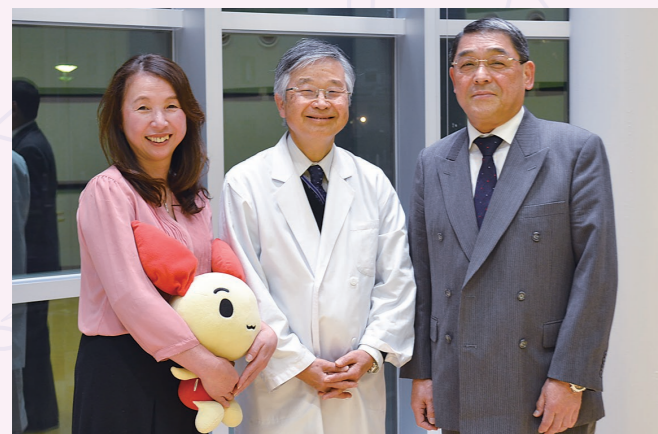
【さちしお】  
「血液事業をとおして、みなさまの幸せに貢献する」との願いを込め、幸せの「幸(さち)」と「血潮(ちしお)」を組み合わせ、名付けられました。



# わたしたちの 思い

～ 献血にかかわる様々な立場から～

最終回となる今回は、塩原所長とともに、実際に輸血を受けたお二人から輸血の体験談や現在取り組まれていること、献血への思いなどを伺いました



和田 真由美さん 塩原 所長 川下 勉さん

## 輸血治療を受けたきっかけ

—— お二人が輸血を受けられた際のことをお聞かせください。

和田 私は白血病を患い、その治療の一環で輸血を受けました。

川下 私はそれまで他の病気で通院していたのですが、いつでも良いから検査入院を、と言われて、ゴルフをして翌々日に入院したら、4日後にいきなり輸血が必要になり、正直驚きました。

塩原 輸血しないと治療ができない、という状態だったのですね。

川下 はい。最終的には骨髄移植が必要になったのですが、当時の記録を見返してみると、移植できるコンディションにもっていくための前処置治療として移植の前日までの約9か月間で72回、そして無菌室内で骨髄移植を受けている間も12回の輸血が必要で、赤血球製剤：33回、血小板製剤：51回の輸血を受けていました。

—— たくさんの輸血を受けられたのですね。

和田 私の場合、前処置から移植後数日間は朦朧としていて、治療のどのタイミングでどのくらい輸血を受けたのか、ほとんど思い出せません。でも、治療に入る前に先生や看護師さんと何度も話し合いがあり、輸血用血液製剤についてもきちんと説明を受けていたので心配な点はありませんでした。

とにかく移植後の衰弱が激しくてしんどい状態が何日も続き、なかなか無菌室から出られず、もどかしい思いをしていました。でも、少しずつ数値が改善し、骨髄が生着してもう輸血が必要ないと先生から言われたとき、とても嬉しかったことを覚えています。

## 感謝の気持ちでいっぱい

—— 輸血を受けて、どんなことを思われましたか。

川下 私自身、20～30代初めの頃にかけて十数回ほど献血の経験があります。なので、輸血を受けることも特別なこととは捉えていなかったのですが、輸血の都度、同意書へのサインが必要と知って、正直驚いた次第です。

塩原 輸血を受ける患者さんには、医師から輸血療法の必要性とともに使用する血液製剤の種類と使用量や輸血に伴うリスクなどを十分に説明し、同意を得ることが義務付けられているためですね。

もちろん、大前提として、血液センターでは厳重な安全管理を行い、患者さんにできる限りマッチした安全な血液をお届けしています。その一環として、献血していただく方にも、体重や年齢、海外渡航歴などの献血基準にご理解をいただいたり、患者さんのために責任ある献血をお願いしたりしています。

川下 そうなんです。私はたくさんの輸血をしていただいたのに、大きな副作用が現れたり抗体ができたりといったことなく輸血治療を完了することができました。これも献血して下さった皆様のご協力と医療機関の精度の高い品質管理、そして赤十字血液センターの厳重な安全管理のおかげです。

塩原 励みになるお言葉をありがとうございます。血液疾患は治療に時間がかかり、その間に何回もの輸血を行います。また、症状が安定するためには、根気強く治療を続けなければなりません。血液は長期保存ができませんから、こうした長期にわたる輸血治療ができるのも、献血者が継続的に協力してくださるおかげですね。

和田 病気を通して、先生をはじめ看護師さんや薬剤師さん、また直接関わりはありませんでしたが、輸血部の検査技師さんなど医療スタッフの皆さん、そしてもちろん献血して下さった皆さんも、治療には本当にいろんな方々の支えが必要なのだと思ひましたし、感謝の気持ちでいっぱいです。



## 社会復帰した今、思うこと

—— 今お二人は社会復帰され、ご自身の経験を活かした活動をなさっています。

和田 私は「萌の会」という患者会の代表をしていて、患者さんや元患者さん、ご家族、医療者などの交流を図っています。

塩原 和田さんは、退院後間もなくから「患者会を作りたい」と言っていて、元気になられてすぐに会の発足に動き出されましたね。昨年は設立20周年を迎えられるなど、これまでに多くの患者さんやご家族の大きな支えとなってこられました。

和田 私自身、治療中の先が見えない不安の中で、治ったらお世話になった皆さんに恩返しをしたいという思いがずっとありました。それが患者会を発足したきっかけです。最初は金大病院から始まった会ですが、すぐに口コミで県内外に広がり、今では会員は小さなお子さんから80代



の患者さん、ご家族の方、医療者、行政関係者もいます。20年間毎月発行してきた会報「萌の会だより」は、会員や医療者はもちろんのこと、病棟やがんサロンなどにも置かせていただき、だれでも閲覧できるようにしています。また、年数回、県内の血液内科がある医療機関内で、医療者を交えた交流会を開催しています。

川下 私も参加していますが、交流会には患者さんだけでなく若い医療者の方々も参加してくれています。将来の医療を担う若い医師や看護師に、あなたが行っている治療はこんなに素晴らしいものなんだよと直接伝えることができるのは嬉しいですし、彼らにとっても励みになってくれたらいいなと思っています。

塩原 それは医療者としても大変ありがたいことですね。

川下さんは、さらに骨髄バンクの推進にも関わっていらっしゃいますね。

川下 はい。輸血と骨髄移植のおかげで、移植後14か月で復職してから一昨年退職するまでフルタイムで働くことができました。その感謝の気持ちから、骨髄バンク推進のために草の根運動を展開しているボランティア団体「いしかわ骨髄バンク推進・はとの会」で骨髄バンクドナー登録者への説明員をしています。

輸血を受けていなければ、骨髄移植に至るまで生存することもできなかったかもしれません。また、骨髄移植を受けられなければ、完全に輸血が不要となるまで回復することもなかったでしょう。

今では造血には全く問題がなく、献血して恩返しできればいいのですがそれはかないません。ですから、自分が献血した量の何倍もの血液をいただいたその恩返しとして、献血者やドナー登録者を一人でも多く増やすお手伝いできればと考えています。

塩原 ありがとうございます。実際に輸血を受けたお二人だからこそ伝えられるメッセージがあると思います。当センターでも、県内医療機関のご協力をいただいて、石川県学生献血推進委員会の学生ボランティアの皆さんが、今輸血治療を受けている患者さんから献血者への感謝のメッセージをいただき、キャンペーンなどで掲示していますが、それを見た献血者が、患者さんのためにまた協力したい、と言ってくださいます。

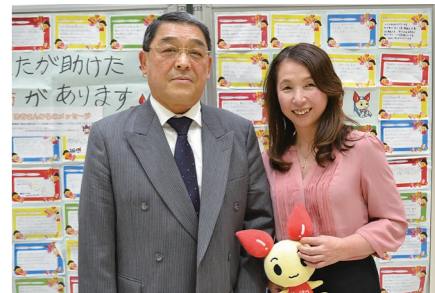
和田 私も入院中にそのメッセージを書きました。今、またこうして皆さんに感謝の気持ちをお伝えできる機会をいただけて嬉しいです。患者さんやご家族の悩みは様々で、気持ちは常に揺らんでいます。闘病中だけでなく退院後も心配は尽きませんが、信頼できる医療者や仲間がいることで安心で

塩原 ありがとうございます。実際に輸血を受けたお二人だからこそ伝えられるメッセージがあると思います。当センターでも、県内医療機関のご協力をいただいて、石川県学生献血推進委員会の学生ボランティアの皆さんが、今輸血治療を受けている患者さんから献血者への感謝のメッセージをいただき、キャンペーンなどで掲示していますが、それを見た献血者が、患者さんのためにまた協力したい、と言ってくださいます。



骨髄バンクドナー登録募集パンフレット (日本骨髄バンク <https://www.jmdp.or.jp/>)

きる部分が大きいと実感しています。日々献血して下さる方がいることも、きっと患者さんの心を支えていることなのでしょう。これからも感謝の気持ちを忘れず、患者会とあわせて献血や骨髄バンクの啓蒙、がん教育など様々な活動をしていながら、皆さんと思いや情報を共有していきたいと思っています。



「患者さんからのメッセージ」とともに

## 皆さんへのメッセージ

塩原 今、若い方の献血協力がだんだん減少しています。高齢社会が進んでいこうと今後、患者さんが必要とする血液を確保するために、特に若い方に積極的に献血への理解を促し、協力をお願いしていく必要があります。

川下 小さなお子さんやAYA世代\*で、私たちと同じような病気で治療を受けている患者さんがたくさんおられます。また、医療技術の進歩により、治療可能年齢も上がってきています。そのため、献血の必要性がますます高まっています。

一方で、少子高齢化が進み、特に若い世代の方の献血への応援が本当に大切になってきています。お若い方もいずれは中高年となりますので、命のリレーとして献血のバトンを次世代の方へも繋いでいっていただきたいと切に願っています。

\*「AYA (Adolescent and Young Adult) 世代」…15歳～40歳未満の世代

和田 献血は健康でないとできません。言い換えれば、献血ができるということは健康のパロメータでもあります。献血を通して、ご自身の体や健康にも関心を持っていただきたいと思います。

川下 そうですね。献血もドナー登録も、いずれも健康な方ではないとできない素晴らしいボランティアだと思います。献血は決して特別なことではないと思いますので、まずは一度、献血をすることで患者さんを応援していただけたらと思います。そしてもう一歩踏み込める方には、ドナー登録もしていただけると本当にありがたいです。

—— 本日は貴重なお話をありがとうございました。(聞き手 さちしお編集委員会)

